

地域課題の解決に向けた取組

# 根室地域におけるエゾシカ被害低減対策

根釧東部森林管理署

## 【はじめに】

根釧東部森林管理署は、我が国の最東端に位置する森林管理署で、根室振興局管内の根室市、別海町、中標津町、標津町及び羅臼町内の森林面積の約6割にあたる106,000ヘクタールの森林を管理しています。

## 【地域の課題】

根室地域のエゾシカによる農林業被害額は、ここ数年減少傾向ですが、高水準で推移しており、基幹産業である酪農業に深刻な影響を与えています。また、国有林においても、造林木の食害や立木への角こすりなどの被害が発生しています。

## 【囲いわなによる捕獲】

当署では、平成26年度よりエゾシカの越冬地となっている根室市内の海岸沿いの国有林において大型囲いわなによる捕獲を実施しています。

捕獲は、初めに大型囲いわな周辺に牧草を撒いてエゾシカを誘引します。警戒心が薄れたところでわな内に牧草ロールを置いて、カメラで監視し、エゾシカがわなに入ったところで扉を遠隔操作し捕獲します。

現在は、根室市内の長節、落石地区2箇所では捕獲を行っており、令和4年度の捕獲頭数は合計で298頭となりました。捕獲開始からの累計捕獲頭数は1,397頭となり、囲いわなによる捕獲は、今後も継続して行きたいと考えています。

## 【忌避剤の効果を検証中】

今年度からの取組としては、エゾシカ忌避剤の効果的、効率的な散布方法を検証しています。

造林木の食害被害拡大による成林の遅れや再造林経費の増大が懸念されることから、令和4年の秋にカラマツコンテナ苗を植えた造林地に試験地を設定し、自動撮影カメラを設置して忌避剤散布の有無や忌避剤散布前後のエゾシカの行動分析を



野付半島から望む羅臼岳。根釧東部森林管理署が管轄する国有林は、世界自然遺産に登録された知床半島の南西側、武佐岳などが連なる摩周湖までの山岳林、北海道遺産に選定された格子状防風林、希少な野生動植物が生息・生育している根室半島や野付半島の海岸林など、様々な特色を持つ森林からなっています。



捕獲事業は、根室市との連携により実施しています。連携の一環として、根室市は国有林内でエゾシカの生息調査を行っており、得られたデータは今後の対策への活用が期待されます。

また、大型囲いわなで捕獲されたエゾシカは、地元の食肉加工業者に引き取られ、活用されています。

-----

行っているところです。検証結果がまとまった際には、民有林でも活用できるようにしたいと考えています。